



秋の青空の下、コスモスが

庭に咲いています



大阪にて パート1

東京におさらばするかどうか、迷っていました。

一流企業だからといって私はそこにはあまり興味がなく、仏教的には人生の目的は悟りを開くことだと思っと思っていますので、お金や名誉などは興味がなく、まして企業が大きいから、一部上場企業だからと言って何も興味がわきませんでした。あの支店長さんだけは、興味深い人でしたのでその部分で迷っていました。

後で知ったのですが私の身辺調査が行われていて、私はアウトだったそうです。それはそうですね、キャバレーのボーイ、銀座のバーテン、小田原でヤクザの準構成員、こんな履歴のある人間を雇うことは

考えられませんが、支店長の「まあやってみますか」の押しが採用に決まった原因だそうでした。

兎にも角にも「こい！」という支店長の言葉をありがたく頂き、私は東京とおさらばし、大阪に行くことにしました。山崎君にはお世話になりました。別れるのはしのびがたかったのですが、彼も私の大阪行には賛成してくれましたので、仕事の後始末を2週間かけて終わり、会社の皆に挨拶をして、自分の車で大阪に向かいました。

大阪では父方の叔母さんが東住吉で玉突き屋を開いていて、その叔母がアパートを探してくれましたのと、長年お袋を京都に置いておいたので、お袋を呼んで二人で生活することにしました。遅ま

きながら親孝行をするつもりでおりました。

大阪のアパートは2階建ての二階に2畳の部屋を借りましたが、1階から2階への屋根がトタン屋根で、夏の日差しの強いところは照り返しで暑いことに参りましたが、今の時代のようにエアコンもありません。蚊帳を釣って夜は窓を開けて寝ていました。

まあ出勤には10日ほどありましたある日、アパートに刈谷里江が訪ねてきました。彼女は私が高校時代の後輩、部活の音楽部、バレー部で一緒に、よく私の京都の部屋に遊びに来ていて、お袋と馬が合うのか、私が大学に行ったあともお袋とは良く会っていたようです。実は私がキャバレーのボーイをした時、里江には電話していたのでそれをお袋に話していたようです。

里江は東住吉の近くに

住んでいて今では結婚して1歳の女の子のママになっていました。「やあ、久しぶりだね」「籠谷さんもお元気そうで」「まあね元気だけが取り柄かな。ところで結婚生活はどう?」

「……」里江は突然黙り込んでしまいましたが、うつ向いていました。「いろいろあつてね、迷っているの」「そう、いろいろあるのか」と私はわけのわからない言葉を里江にかけていました。

「どう?ドライブでもしないか?」「はい、嬉しいわ」里江を乗せてその辺をひと回りしましたが、里江の悩みを聞いてやることはできませんでした。

里江が帰ったあと叔母さんが来て、「弘、人の奥さんとあまり親しくしないように」と忠告を受けましたが「叔母さん、里江とはそんな中ではないので心配しないで」と私は受け流していましたが、内心は

里江のことが心配で私でどうにかなるのなら思っていました。私にとつて里江は初恋の人かとも思っています。今更向こうは結婚して子供もいる立場、私の気持ちなど表に出していい訳ないと考えていました。

2日後引越しの片づけも終わり、一息ついている時里江がやってきました。お袋はお茶を出して気を聞かせたのか「叔母さんちに行つて来るからその帰りに買い物してくる」と言つて出かけました。

里江は「実は私離婚を考えているの」と突然言い出し「え!なんで」と聞く私をじつと見て、「夫の仕事がうまく行かなくて、私にこの頃暴力を振るうの」「え!お前に暴力をなんぞ?」「わからないけどイライラするのでしようね」「いつから?」「もう6ヶ月も前から」「そんな前から、それでお前は我慢して

いるのか」「仕方ないでしょう子供も居るし」

私は暫く里江を眺めて考えていました。かわいそうになぜ暴力など、どうしたら良いのか？突然里江が「私やはり籠谷さんが忘れられないの、それは夫も高校時代からの付き合いだから感じて居るらしくてヤキモチを焼くの」里江は洋子の事は知らないらしくて、ズーと心のなかで私のことが忘れられなくて過ごしてきたようです。私は里江の本当の心の中を見てしまい、突然高校時代に戻ってしまう錯覚を覚えていました。

本来なら里江と一緒にいる身であったのかも知れない。しかし、私が東京に行ってしまったことでその縁が切れたのか、それが今再び呼び戻されようとしているのか、仏様のいたずらか、こうなる運命だったのか、こうなるとは？里江と一緒にいる運命だったのか？私はぐるぐる回る頭の回転の中で里江に子供が居てもそんな事は大した問題ではない、叔母さんの反対もよく説明すればわかってくれる、お

袋は賛成してくれる、そんなことを思いながら泣いている里江を愛おしくなっている自分を眺めていました。

里江との結婚はいろいろハードルがある、旦那はどのように出てくるのか、こんな狭いところで子供と里江を迎えることが出来るのか？……この続きは、次回で！

籠谷 弘

「会員 趣味のホームページ」
より

「あじさい川柳」 藤本花枝

祭りだ祭りだワクワクンだ

そーれそれ

コンチキチン今年も聞けず

夏さみし

長い自粛とうとう膝が拗ね

だした

老後の二年をコロナが虫食いに

さておいて感動したねオリ、パラリック

「白ばら園」 奥村文代

「またね」

ねえ お願い
気軽に「またね」と

言わないで

あなたにとつて その言葉

ただのひとつ 通過点

いつか いつかと 待っている

いる

ひとりぼっちの 私には

震んで見えない 遠い道

でも お願い

やっぱり「またね」と

声かけて

あなたに会える その時を

ひたすら願い 楽しみに

今日か明日か 待っている

ひとりぼっちの 私には

闇夜を照らす うす灯り



写真は今年初め頃のものです。

歌声喫茶 11月の予定

「西院」(第2、4木曜日)

11月11日、25日

「洛西」(第1、3木曜日)

11月 4日、18日

楽々亭第13回10月の予定

10月12日(火)

西京区役所洛西支所会議室

午後1時30分～3時30分

ともしび通信

発行元：NPO 法人没イチの会・京都

住所：京都市西京区大原野東境谷町1丁目1番地 4-701

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●ともしび通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。